

令和6年度下期「ひょうご子ども・若者応援団」一般助成事業成果報告

事業期間 令和6年10月～令和7年3月

写真掲載については許可を頂いた団体のみ掲載しております

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
1	関西フランコフォニーフェスティバル in 神戸実行委員会 (神戸)	① 関西フランコフォニーフェスティバル in 神戸実行委員会 ② 高校・大学を訪問してフランス語で広がる世界の講演や、発表を行う機会を提供した。 ③ 各学校訪問では、約250人の学生に「フランス語で広がる世界・フランス語がもたらす出会い」の重要性を伝えることができた。3月8日には、講演会、映画の上映、3月22日には、高校生・大学生が、大勢の聴衆の中でフランス語にて、発表を行った。参加者からは「フランス語を通して生まれた人とのつながりの有難みを改めて実感することができた」「緊張したが、楽しかった」という声が聞かれた。
2	兵庫県レクリエーション協会 (神戸)	① あそびとおはなしの会 ② バルーンや用具を使って、子どもにとっての遊びの大切さを語りながら親子遊びを実際に行いました。 絵本を使った読み聞かせを行いました。 親の感想を聞きました。 体験したことを自然に実現できるような話をしました。 ③ 子どもの遊ぶ姿を見て親は遊びの大切さを実感できました。 子どもと一緒に遊ぶ様子を見て我が子を知ることができました。 バルーンや用具を使った自由遊びで思いっきり楽しむ姿を見ることができました。 読み聞かせで絵本に夢中になる子どもの姿をみて、スマホにはない良さを実感できました。
3	永沢寺そば打ち同好会 (阪神北)	① 親子そば打ち体験教室 ② 本活動では、けやき台小学校の生徒とその親を対象に、日本食の「そば」をそば粉から手打ちして、湯がいて食べる迄を体験でき

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		るそば打ち体験教室を実施した。今回の参加には多数の応募があり、抽選で選ばれた 16 組の参加者とともに活動を行った。 そばの麺はどのように出来るのか、まずは運営スタッフが見本のそば打ちをして、作業工程を見学してもらうことで参加者に興味を持ってもらった。その後、各グループでそば打ちを開始し、初心者としては多い量ではあるものの、1 鉢・粉 800g (二八そば) のそば粉を親子交互に打ってもらった。参加者は運営スタッフの指導の元、約 1 時間かけて混ぜる(水回し)、練る、延す、切る、茹で、器に入れるといった全ての工程を体験し、最後は自分たちで打ったそばを試食して、活動を終了した。 今回のイベントでは初めて”親子”で参加してもらう形をとり、また初めて”茹でて食べる”という工程まで体験教室の中で実施した。 そのため、伝統的なそば打ち技術の認知拡大とその継承に貢献するだけでなく、参加者は新たに「親子で一緒に食事を作って食べる」という楽しさを体感し、食育の促進という面でも有効な活動となった。 ③ 体験教室の実施中は、参加者が初めての作業に苦勞する場面もあったものの、運営スタッフが各テーブルについていたため、上手く交流を図りながら作業を進めていく姿が印象的だった。特にそば粉を混ぜる水回しという作業では、親子共に苦勞する様子も見られたが、そばを薄く延ばす作業では、親より子どもの方が上手くのし棒を使い、参加者同士で体験を楽しんでいる姿も見られた。体験を終えた参加者からは、来年も是非やって欲しいとの声が多く届き、今回の活動の大きな成果となった。また、子どもたちがそば打ちに興味を持つ様子や、親子や参加者同士で協力し合って食事を作るという作業に取り組む様子が見られ、このような参加者たちの活動の様子からも、そば打ちの伝統継承や食育といった目的の達成を実感することができた。
4	ひよどり台青少年育成協議会(神戸)	① ふれあい春の子どもまつり ② 春の 1 日を子どもから大人までが一緒に遊ぶお祭り行事。子ども達が主体にいろいろな遊びを考えて一緒に楽しみます。 ・子ども実行委員を募集し、行事の企画段階から参画を促し、学校、児童館などの全面的協力を得て、ゲームプログラムの立案・実施から用具の準備まで子ども実行委員が主体で担当した。今年度も先生たちの負担は極力かけないように工夫した。

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		・青少協育成委員が大人実行委員として参画、応援・協力、アドバイスを行なった。 ・いろいろな遊びの内容は、危険がないこと、工夫を凝らすことも目的とした。 ・大きな子どもが小さな子どもにルールを教えたり、面倒をみることも大きな目的です。 ③ 昨年度コロナ禍明け、学校教員改革の嵐の中でも何とかできた経験をもとに今年度の取り組みを進めてが、子ども達と向きあった活動が出来たと思う。 地域の子ども達同志の交流、大人との世代間交流ができたと思います。 今年度は、行事開始前から雨天で行事を中止せざるを得ない状況でしたが、児童館内を利用してよいという児童館のご厚意と関係者の協力で、ゲームの準備、中学校吹奏楽部の開演演奏、ゲーム遊びもすべてが計画通りに出来た。雨天、急遽の場所変更もあったが、みんなが協力して適宜対処しながら活動が遂行できました。結果として、急な天候不順に対して、関係者全員の協力・交流が得られ、地域力を発揮することができた思い出深い行事になりました。
5	やまびこの会 (神戸)	① やまびこの会 ② 性教育講演会を実施し、性について学んだ。 ③ 性教育講演会では、初めて聞く話もあったかと思うが、その中で、命の大切さや自分自身、相手を大切にすることなど学ぶ機会となった。
6	ジョイフルコンサート実行委員会(阪神北)	① ファミリーコンサート ② 伊丹アイフォニックホールにて現在音大・音楽高校で真剣に音楽を勉強している子ども達に演奏の機会を作りました。 普段演奏会に入れない未就学児とその保護者も入場可能とし、様々な世代の方に演奏会を楽しんでいただくことができた。 ③ 演奏会が夕方からにも関わらず、小さな子ども連れの方から、お年寄りの方、障害を持たれている方など、とても幅広い年代の方がホールへ足を運んでいただきました。

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
7	MAMA YOGA lila (丹波)	① 親子でモノづくり教室 ② ①第1回 バクティサンガム&サットサンガ (令和6年10月20日) インドの歌キールタン歌手を講師に招いて、インドの伝統楽器ハルモニウムや太鼓を奏で、音楽に触れ皆で歌うことでインドの文化に親しむ。命の歓びを感じることが出来る歌を共に歌った。サットサンガは子育てや人間関係の悩みや、これから生きていく命の大切さをヨガを通して学び合うことが出来た。 ②第2回 さつまいもの料理教室とキールタンを歌う (令和7年3月20日) さつまいもの成長を畑の作付から収穫を通し、鬼まんじゅうという昔ながらの素朴なおやつを農家さんに教えてもらい、共に味わった。共にキールタンを歌い、ハルモニウムを実際に弾く体験ができた。 ③ 今まで聞いたことのない音楽に触れることで、異文化への興味を持つことができた。インドの楽器を試しに奏でることができて貴重な体験ができた。 「ハルモニウムはピアノの音とは違っていた。空気をおくらないと音が鳴らないのでびっくりした。」 ・『地産地消』は食育推進に役立ち、地元を大切にする心の育成に繋がった。 野菜の作付けや収穫、作物を育てる自然の尊さを感じ、すべては関わり合い、助け合い、野菜づくりを通して自然に育つ力も目にしていき、子どもたちの生きる力になり、生きる命の尊さを知ることが出来た。「自分で植えたさつまいも苗が大きくなって売っているさつまいもより大きいのがとれてうれしかった。」「草引きは大変だった。」「鬼まんじゅうが簡単につくれて楽しかったしおいしかった。」
8	北河原子ども会(阪神北)	① 新年会 ② 野外の新年会を開催し、親睦を図る。 ③ 野外での昼食会、ビンゴゲームやベニヤ板に紙を貼って自由に絵を描く落書きコーナー、自由遊び(たこ揚げ、ボール遊び、かけっこ等)

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		参加した上級生は、下級生の面倒をみて、上手に進めてくれた。
9	清瑞会 (中播磨)	① 広畑秋祭り ② 10/1 から始まった太鼓練習には、小・中学生が参加し、高校生や社会人が太鼓の指導にあたった。年配者が、練習の様子を見守り、世代間交流をしながら、次代を担う青少年のリーダー養成ができた。祭当日には、青少年が、町の伝統行事を維持するために活躍し、いい社会参加ができた。 ③ 少子化のわが町ではあるが、「来年も参加したい」という声をもらった。 また、4～5歳の保育園児も最後まで、参加し、将来の町を担う若者になってくれることを確信した。 親子、祖父母・子・孫の3世代の姿も見かけ、成果は十分あがったと思われる。
10	伊丹バスケットボール協会 (阪神北)	① ITAMI3×3バスケット・フェス2024 ② 伊丹の中心街・三軒寺前広場に3人制バスケットボールコートを設置するとともに伊丹小学校体育館も活用して会場数を増やすことで、小学生6チーム、中学生6チーム、高校生以上18チームの計30チーム(4名/チーム)による3人制バスケットボール大会を実施。 3人制バスケットボール大会と併せて、車いすバスケット体験会、プロチーム(EPIC.EXE)によるエキシビジョンマッチを実施し、パラスポーツとアーバンスポーツの普及・振興を図った。 ③ 「Enjoy Basketball By Town」というコンセプトのもと、伊丹の中心街・三軒寺前広場で開催することで多くの人の目に触れるという本大会の特徴を最大限に活かし、アーバンスポーツの普及、振興を図り、新たなスポーツ文化の創出に資することができた。 ・競技者の中心世代である青少年および他世代にも参加を呼びかけ、40歳以上、女性にはハンディを設けるなど、勝敗より交流や親睦を重視した、性別、世代を超えたイベントとなった。 ・実施運営の過程で青少年の健全な育成にも資するよう関係各方面と協力し、車いすバスケット体験化を実施することで「心がバリアフリーなまち」の推進を図ることができた。 ・街をあげて子ども・若者の育成を応援するという機運を醸成し、

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		今後も本大会が持続可能な大会となるよう、本趣旨に賛同いただける新たな協賛店舗等の開拓を図ることができた。
11	特定非営利活動法人 西脇てとて広場 (北播磨)	① 地域につながる体験活動 ② ・月1回の調理実習(メニューとレシピを決める、栄養点検、買い出し、調理、食事、後片付け) ・月1回の綿畑作業(畝作り、種まき、水やり、草取り、収穫、畑の後片付け) ・月1回程度の畑作業またはてとて広場での野菜作り(苗や種を植える、水やり、間引きや剪定) ・その他、果実の収穫と出荷作業 ・メダカとカブトムシの飼育(餌やり、水換え、卵や稚魚、幼虫等の別容器への移し替え) ・明石の海岸でのビーチクリーン活動(自然体験と環境保全)に参加 ③ ・調理実習では、材料の買い出しと調理に加え、栄養についての学習を取り入れた。 ・畑作りは、てとて広場駐車場の空き地の草を引いて、石を拾い、土を入れて畑を作った。 ・キーウィの収穫、キーウィとゆずの出荷作業をした。 ・カブトムシは昨年の幼虫が成長になり、また卵を産んで幼虫になった。様子を観察する。 ・ビーチクリーン活動は、積極的に取り組む無事ができた。来年も参加したい。
12	長澤自然育児の会”わわわ”(淡路)	① わわわクリスマスイベント ② 団体のクリスマス事業として、アドベントガーデンを行いました。淡路島で採取したみつろうを使いろうそく作りをして、りんごろうそくを灯しながら、クリスマスまでの3週間(アドベント)を“鉱物”“植物”“動物”“人”を見立てたぬいぐるみや人形で飾った渦巻の道をろうそくの灯りとともに歩くイベントを行いました。 イベントでは、ピアノ鑑賞や伝統芸能『南京玉すだれ』を鑑賞・体験しました。ぬいぐるみや人形に関しては、てくてく工房の足立美和子講師を招き保護者や“わわわ”大人の学ぶ会会員が製作しました。

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		③ 子どもたちにとって大切な毎日のリズムと同じように、1年のリズムを感じて生きることは健やかな成長を育む1つであると考えます。子どもたちが楽しみにしている例年のクリスマスイベントをバージョンアップして、今年度は子どもたちが自ら関われるクリスマスイベントを行いました。 異年齢の活動であるため、ロウソク作りやアドベントガーデンは小さい子を大きい子がサポートする場面があり、継続することで、思いやりや自信が育っていると成果が見られました。 手しごと活動をすることで自らの手で生み出されたものが、生活を豊かにする小さな感動体験の積み重ねが、将来不透明な世の中を生きる子どもたちの人生の力になったと考えます。また、伝統芸能の南京玉すだれやピアノ鑑賞を体験できたことは楽しいひと時となりました。 コロナ禍やIT化の影響により子どもたちが自然に触れたり、実体験が少なくなったりしている中、アドベントガーデンを実施できたことは、子どもたちの健全な育ちに寄与する効果がありました。
13	特定非営利活動法人 You a Family Club 障害者・児家庭自立支援（神戸）	① 秋の活動 自分たちで一日を作る！！発言しよう！行動しよう！味わおう！！ ② 障害のある青少年の参加者の中から総リーダーを決めて、しおりや事前学習プリントを作成して頂き、参加者全員が事前にそれらを学ぶ機会を持ち、見通しを持って当日を迎えました。参加者全員が係や各リーダーを遂行し、調理体験を行う中での全体の進行や協力協働を行う社会体験を行いました。 参加者全員が係担当を行うことで、言わば「お膳立て」された中身だけを経験してきた障害のある青少年たちが、活動の趣旨や内容を理解して、責任感を持って活動に臨むという、当事者にとっての主体的な活動を行いました。何度も経験することで身に着けていく障害のある青少年たちに対して、今後も親亡き後の自立に向けてその時に困らぬよう、認知力、コミュニケーション力、社会性の取得という目的を持った活動を積み重ねていく。障害ゆえに何度も何度も練習を重ね、五感に働きかける活動となり、経験を積むことで自身の知識習得となることを目指しています。 ③ 参加者全員が係活動やリーダー役として終日活動し、なおかつ調理と飲食を行った。しおりの内容把握と事前学習を行い、調理の仕方や物品を大切に扱うことはもちろん、公共利用マナーや 当

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		日の各テーブルでの役割決めなど、細部に渡ってフォローや指導を行いました。病欠した一人を除いてその他の全員が健康で参加でき、集合、JR 乗車から 買い物、調理、飲食、退室し迎えの家族と会うまでを、心地よい緊張感を持ちながら遂行できたことは非常に意義のある一日であったと考えます。友達同士で声を掛け合ったり確認したり聞いたり教えたりと、定型発達のお子さんにとっては簡単なことが一番難しい彼等にとって有意義で貴重な一日を過ごすことが出来たと喜んでおります。
14	一般社団法人 神戸 YJB (神戸)	① 坊勢児童館との交流事業 ② 地域外の人と触れ合うことで体験の格差をなくす。一方的に指導するのではなく、子どもと一緒に考えてチャレンジする。 児童館の職員等にもバルーンの扱い方を指導。一緒に考えて実習を行う。 触れ合うために指導者が積極的に話しかけながら指導を行う。 地域の職員や保護者が我が子以外に話しかけ制作の補助をする。 ③ 今回は児童館の職員だけでなく幼稚園の先生も含め参加していただき、子どもたちと指導員の間にあってもらうことで前年度よりもより良いコミュニケーションを取ることができた。
15	影絵劇団 白つめくさ(神戸)	① 影絵劇の企画・制作・出前公演・実技指導 ② 図書館、児童館、小学校への出前公演、並びに各所での公開公演を実施し、影絵劇観賞、人形操作体験、人形制作、スクリーンへの投影などを体験する体験教室も開催し、幼児から小学校高学年までの子ども達が参加しました。 ③ 参加者が予想以上に多く、反響も大きく楽しんでいただきました。影絵を見るのは初めてという子ども達も多く、その新鮮な感動はこちらにも伝わりました。 人形を持って自分で操作してスクリーンに映してみる体験は、どこに行っても大いに盛り上がりました。
16	PLUS ONE (神戸)	① クリスマス会 ② ①アクアダンス教室の講師が指導するダンスに、県内の小・中・高・支援学校に通う学生が参加した

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		②県立高校バスケットボール部に所属する男子高校生の立案によるレクリエーション ・音楽に合わせてボールでストレッチダンス／チームに分かれてボールとフラーフープを使った対抗ゲーム等 ※立案の男子高校生は当日大会に出場の為、代理の者が行った ③美術が得意な県立高校に通う女子高校生によるアートレクリエーション ・plus one の団旗を制作（支援学校に通う学生や卒業生と一緒に絵具やポスターカラーを使い制作を行った） ④アレルギー対応の食事を調理・提供 ⑤参加者全員でのビンゴゲーム大会 ③ ボランティアで参加された高校生は、自身が得意なことを主体に企画し実行したことで自信をもって企画をやり遂げられた支援学校に通う学生や卒業生、異世代との交流がレクリエーションを行う中で自然と発生し、コミュニケーションがスムーズにとれる環境が出来上がった
17	社会福祉協議会 養父市社会福祉協議会 (但馬)	① 春休みプレパーク ② 小学生の多くは保護者と一緒に参加した。会場の近くに住んでいる子は友達同士で来場した子もいた。 養父中学校ボランティア部の生徒に、事前準備（部活の時間内での活動）と、当日のスタッフとして半日関わってもらった。 地元の高校出身の大学生が昨年に続き、ボランティアスタッフとして3人参加してくれた。 ③ 講師が制作した「ヤブコラスイッチ」は大変な人気であった。講師からは「子どもの発想力に、こちらがヒントをたくさんもらった」との感想をいただいた。 竹馬・竹ぽっくりは、スタッフや保護者の手を借りてチャレンジする子が多く、いつでも使えるように整備・修理をすることが思った。
18	ITC-J カウンسل No.3 (阪神南)	① ITC-J カウンسل No.3 第14回高校生スピーチコンテスト ② 兵庫県下の公立高校、私立高校に日英スピーチコンテストの開催を告知し、出場者を募集した。先着順に日本語は4校、英語は5校の出場が決まり、与えられた3つの課題から1つを選び、題目

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		を決定し5分から7分以内のスピーチに挑戦した。 日英それぞれに審査員3名が審査し、投票により優勝、準優勝を決定、他のスピーカーには会長賞が与えられた。 ③ 回と重ねることで、知名度もあがり、参加校が大変威力的に取り組んでおられることに、開催の手ごたえを感じている。
19	一般社団法人 いえしま自然体験センター（中播磨）	① 親子でネット環境を忘れてみよう～レッツ自然体験～ ② ネット環境や便利な生活から離れたいえしま自然体験センターの自然豊かな環境の中で、野外炊飯やウミホタルの観察、釣り、カヌーなどの自然体験を通して、五感を使いながら親子共通の原体験をした。また、保護者の交流会を開き、情報交換やアドバイスをもらう機会となった。 さらに、過剰なネット利用による身体や精神などへの有害性を学ぶ講座を親子で受講した。 ③ ネット環境や便利な生活から離れたいえしま自然体験センターの自然豊かな環境の中で、自然体験を通して、親子共通の原体験をすることが出来た。そのことにより、親子の絆を深め、心のふるさとを醸成し、豊かな心や人間性を育み、子ども達の将来健全やかな成長に寄与することが出来た。また、プログラムを進行する中で、家族で相談しながら対話をする時間を多く設け、今後、主体的に自然体験へ出かける力や課題について家族で対話しながら解決する力を育んだ。 保護者の情報交換会の時間を設けることで保護者の不安や孤立を少しでも和らげることが出来た。そのことにより、家庭環境の安定に寄与することが出来た。 過剰なネット利用による身体や精神などへの有害性を学ぶ講座を親子で受講することにより、親子共通の理解が生まれ、私生活でも親子でネット利用に対する課題について取り組む大切さを知る機会となった。
20	食親同好会（神戸）	① 食と農のまちづくり事業（オーガニック活用食育） ② 子どもの健全育成を図る活動を目的に推進しました。子どもに大切な知育・体育・徳育の根源に「食育」があります。その源にミネラル豊富な有機素材を活用した「オーガニック給食」の実用例としてドキュメンタリー上映を紹介し、親子食縁交流会を実施、

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		その有用性を体感してもらいました。特に、米や小麦にはオーガニックにこだわりより自然に近い食材を活用しました。クッキングに際しては、親子プログラムとして家族チーム協働での弁当づくり、和食づくり、お菓子づくりを通して、親子共育としてのチームワークを発揮し自分の役割を認識していました。 ③ 親子クッキングでは子どもの自主性を尊重するワークショップの様相を呈し、イキイキした子どもの笑顔が印象的でした。
21	一般社団法人 ガールスカウト兵庫県連盟（神戸）	① 2024 年度全国7地区年長部門事業 近畿地区兵庫県大会 ② 近畿地区2府4県の中高生年代の少女が集まり、1泊2日生活を共にし、交流を深める。 「クリエイティブチャレンジプログラム」の体験を通して、身近な所から課題を見つける力や問題解決に結びつける力、卒にはまらず創造的に発想する力などを身につける。 ③ 中学生45名、高校生10名が参加し、他府県の仲間とグループになり話し合いをし、交流会で県紹介のプログラムで各府県について知り、交流を深め、互いを理解する機会となった。 「クリエイティブチャレンジプログラム」に取り組むことで、意見の多様性を知り、問題を客観視することにより、解決の糸口を見つける手法を身につけた。
22	一般財団法人 野外活動協会（OAA）（神戸）	① 青少年体験活動指導者養成事業 ② 青少年の指導者／支援者の養成を通して、体験活動の質の底上げをはかるとともに、次世代の青少年活動を牽引する人材を養成することを目指し、様々なプログラムを実施した。 ③ 兵庫県には、全国でも注目されている自然学校など「体験教育」のノウハウを活かし、青少年を対象に体験活動を行う方々への研鑽の機会をつくりました。それぞれの分野の専門家や現場で活躍する方々を講師として呼びかけ、OAA がプログラムのデザインを行いました。野外活動からいま再流行のユースワーク、そして教育の本質や現状を考える機会など、様々な角度から青少年育成や体験活動に関する学習の機会をつくることができました。それぞれ参加された方からも「もっとこのような機会を作ってほしい」「さらに別の目線で教育を捉えてみたい」などの声もあり、プロ

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		グラムは成功していると捉えています。実際の成果や効果は、参加された方々がこれからどのように活躍されるのかにかかっていると考えます。
23	特定非営利活動法人 淡路島 アートセンター（淡路）	① 次世代コミュニティ創造プロジェクト ② 大学生を含むスタッフと企画実施し、アーティストが一定期間地域に滞在し、地域の文化や住民と交流しながら創作活動を行うプログラムで、このイベントを通じて、きむらとしろうじんじん氏が地域に根ざしたアート活動を展開しました。地元住民とのアート活動の双方向のコミュニケーションを図ることで、アートが地域社会に溶け込み、持続的な文化交流が促進されること、運営をする青少年にとっても有意義な経験となること、地域にとっても地域経済を循環させる機会となることに期待し実施しました。 ③ このイベントでは、青少年らが地域住民や他の参加者、アーティストと交流する場となりました。この体験を通じて、多様な価値観を学び、コミュニケーションスキルを磨く機会となったと思います。特にアーティストとの対話、普段の生活では触れることのない新しい視点や考え方で、創造的な思考も養われたと思われます。そして、計画立案や実施に関わる実践的な経験ができたと思います。これにより、リーダーシップや問題解決能力が養われ、将来的に社会で活躍する力になればと願います。 この事業によって、青少年らにとって新しい知識や価値観を得るだけでなく、他者を尊重する態度を養う場となったと考えます。
24	わくわく音楽会実行委員会 (阪神北)	① わくわく音楽会 vol.16 ② この度の演奏会では、青少年による指揮者、弦楽合奏、フルート及び声楽のソリストを起用し、小学生～高校生及び青少年による合唱を編成し、約30名程の出演者を構え、演奏会の開催を実施した。 ③ 演奏会を通じて、青少年が音楽的な経験を積むことが叶い、自己表現や自己管理のスキルを磨くことができ、健全な精神的成長や自身の形成が促進されたと考える。
25	段上地区青少年愛護協議会 (阪神南)	① 秋まつり

	事業実施団体 (管轄地方青少年本部)	①事業名 ②事業目的・内容 ③事業成果
		② オータムコンサート (甲武中学校 吹奏楽部、報徳学園 少林寺拳法部)、 NDS ジャンパーズ 縄跳び演舞披露 日ごろの活動の成果の発表の場とする。また、生の演奏、演舞を鑑賞して、芸術に親しむ バザー 地域へ出品の声かけをする。バザーの収益金は、学校備品の購入など子供たちの健全育成のために使う お楽しみコーナー 参加児童向けに、サコッシュ絵付けやゲームコーナー、縄跳び体験コーナーを開催する。 作業所、地域店舗の販売 (ななくさ清光園、すばる福祉会、なないろ弁当、こぶたのキッチン) ③ 生徒、児童たちにステージ発表する場を設け、来場者に観ていただき、声援を受けることで、日ごろの活動の成果、達成感を感じられ、今後の活動にも意欲的に取り組むことができる。また、自尊心を高められる。 ボランティア活動を通して、地域住民、PTA 等人と人のつながりが生まれ、地域の活性化につながる。そして、安心安全なコミュニティづくりの推進の場となり、子供たちの心のふるさとづくり、健全育成につながる。 子供たちが参加することで、保護者にも地域活動に興味をもってもらえる。